取扱説明書

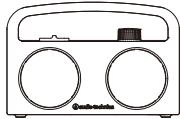
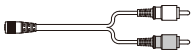
audio-technica

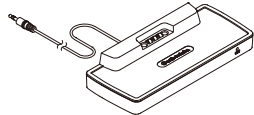
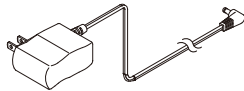
デジタルワイヤレスステレオスピーカーシステム

AT-SP760TV

お買い上げありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

内容物を確認する

本製品をご使用になる前に、下記内容物がすべてそろっていることを確認してください。万一、内容物に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社お客様相談窓口(→16ページ) までご連絡ください。

●スピーカー
（AT-SP760R）×1

●トランスミッター
（AT700TX）×1

●変換ケーブル（10cm）×1
●保証書
●かんたんマニュアル
●ACアダプター
（AD-SL0520AH）×1
●取扱説明書（本書）

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠危険	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が切迫しています」を意味しています。
⚠警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。
⚠注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本体について

⚠警告

●心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以内の場所では使用しない
ペースメーカーが、本製品の電波の影響を受ける恐れがあります。
●本製品を医療機器の近くで使用しない
電波が心臓ペースメーカーや医療用電気機器に影響を与える恐れがあります。
医療機関の屋内では使用しないでください。
●指定の AC アダプター以外は使用しない
事故や火災の原因になります。
●異常に気付いたら使用しない
異常な音、煙、臭いや発熱、損傷などがあったら、すぐに使用を中止して、お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
●分解や改造はしない
感電、故障や火災の原因になります。
●強い衝撃を与えない
感電、故障や火災の原因になります。
●濡れた手で触れない
感電やけがの原因になります。
●水をかけない
感電、故障や火災の原因になります。
●本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない
感電、故障や火災の原因になります。
●布でおおわない
過熱による火災やけがの原因になります。
●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。

⚠注意

●不安定な場所に設置しない
転倒などによりけがや故障の原因になります。
●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
故障、不具合の原因になります。
●火気に近付けない
変形、故障の原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活保護液などは使用しない
変形、故障の原因になります。

AC アダプターについて

⚠警告

●AC100V 以外の電源には使用しない (日本国内専用)
過熱による火災など事故の原因になります。
●本製品以外には使用しない
過熱による火災など事故の原因になります。
●異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜き
お買い上げの販売店か当社のサービスセンターに連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
●コードは伸ばして使用する。釘などでの固定や、束ねたままでの使用はしない
過熱による火災など事故の原因になります。
●コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む
過熱による火災など事故の原因になります。
●コードを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする
断線、故障の原因になります。
●コードの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない
断線、故障の原因になります。
●分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
●強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
●濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
●布などでおおわない
過熱による火災など事故の原因になります。
●プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る
過熱による火災など事故の原因になります。
●ベンジン、シンナー、接点復活剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

⚠注意

●長時間使用しないときは、コンセントから抜く
省エネルギーにご配慮ください。
●足に引っかかりやすい場所にコードを引き回さない
故障や事故の原因になります。
●通電中のACアダプターに長時間触れない
低温やけどの原因になることがあります。

リチウムポリマー電池（内蔵）ついて

⚠危険

●電池の液が目に入ったときは目をこすらない
すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、医師の診察を受けてください。
●電池の液が漏れたときは素手で液を触らない
■液が本製品の内部に残ると故障の原因になります。電池が液漏れを起こした場合は、弊社サービスセンターまでご相談ください。
■万が一なめた場合はすぐに水道水などのきれいな水で充分にうがいをし、医師の診察を受けてください。
■皮膚や衣服に付いた場合は、すぐに水で洗い流してください。
皮膚に違和感がある場合は医師の診察を受けてください。
●火の中に入れない、加熱、分解、改造しない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●釘を刺したりハンマーで叩いたり踏み付けたりしない
発熱、破損、発火の原因になります。
●落下させたり強い衝撃を与えない
液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
●以下の場所で使用、放置、保管しない
■直射日光の当たる場所、高温多湿の場所
■炎天下の車内
■ストーブなどの熱源の近く
液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になります。
●水に濡らさない
発熱、破裂、発火の原因になります。
●指定の充電器、AC アダプター以外で充電しない
故障や火災の原因になります。

⚠注意

●機器を使用したあとは必ずスイッチを切る
液漏れの多くは、スイッチの切り忘れによる電池の消耗が原因です。

リチウムポリマー電池（内蔵）ついて（つづき）

■本製品を廃棄する場合　リサイクルのお願い

内蔵充電池はリサイクルできます。
本製品を廃棄するにあたり、リサイクルにご協力いただける場合は本製品を下記宛先まで着払いにてお送りください。
なお、電池を取り出したあとの本製品は返却いたしかねますので予めご了承ください。

○送り先
〒915−0003　福井県越前市戸谷町87−1
株式会社テクニカフクイ　サービス課　宛
TEL:0778−25−6736

■内蔵充電池の交換のしかた

本製品を充分に充電しても使用時間が短くなった場合は、内蔵充電池の寿命が考えられます。内蔵充電池の交換は、お客様ご自身で行なわず、当社サービスセンターへご相談ください。
○サービスセンター　0120−887−416
(携帯電話･PHSなどのご利用は　03−6746−0212)

使用上の注意

本体について

●ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
●AC アダプターのプラグの抜き差しは、電源を切ってから行なってください。
●本製品の近くに発信機（携帯電話など）があるとノイズが入る場合がありますので離してご使用ください。
●汚れたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

ワイヤレス機器について

本製品は 2.4GHz の周波数帯域を使用します。この周波数帯域を使用するほかの機器との電波干渉を避けるために、下記事項をお読みのうえ、ご使用ください。

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電気機器・IT・産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許が必要）、特定小電力無線局（免許が不要）、およびアマチュア無線局（免許が必要）が運用されています。

1. ご使用の前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 本製品の使用により、万一、移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合には、速やかにトランスミッターの電源を切ってください。そのうえでお客様相談窓口（→16 ページ）にご連絡いただき、混信回避のための処置（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. そのほか、移動体識別用の特定小電力無線局またはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉が発生した場合や、ご不明な点がございましたら、当社お客様相談窓口（→16 ページ）までお問い合わせください。

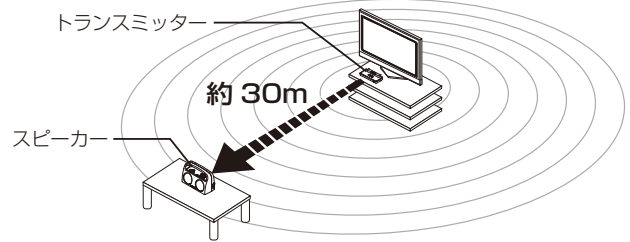
●本製品は日本国内でのみご使用いただけます。
●本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システム無線局設備として技術基準適合証明を受けております。無線局の免許は必要ありません。
●以下の行為は、法律で禁じられています。
　－　分解や改造を行なう
　－　本体に貼付の技術基準適合証明ラベル（　マークを含むラベル）をはがす
●本体の表示について
2.4XX8　この無線機が 2.4GHz 帯を使用し、変調方式はその他の方式、与干渉距離が 80m 以内、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能を表わします。
●使用可能範囲
トランスミッターから約 30m の範囲でご使用いただけますが、トランスミッターとスピーカーの間に障害物がある場合や建物の構造などによっては使用可能な距離が短くなる場合があります。
●ほかの機器との影響
Bluetooth 搭載機器、無線 LAN・Wi-Fi を使用する機器、デジタルコードレス電話、電子レンジなど、本製品と同じ 2.4GHz 帯の電波を使用する機器の影響によって音声が途切れることがあります。同様に、本製品の電波がこれらの機器に影響を与える可能性があるため、干渉しあう機器同士は離して設置してください。

防滴性能について

スピーカー本体は防滴仕様（保護等級 IPX2※相当）です。
防水仕様ではないため水をかけたり、水につけると故障の原因になります。
トランスミッター、付属の AC アダプター、変換コードは防滴仕様ではありません。
また、スピーカーのヘッドホン端子のキャップが完全に閉まっていないと本体内部に水が入り故障の原因となります。

※JIS 保護等級。IPX2 相当とは、取っ手側から 15 度以内で傾斜させて鉛直に落下する水滴に対して本体機能を保持するものです。
※お風呂など高温多湿の場所では使用しないでください。

デジタルワイヤレススピーカーシステムについて

本製品はトランスミッターに接続した機器の音声をスピーカーへ無線伝送します。到達可能な距離は、トランスミッターから約 30m※ です。

※電波の到達距離は、スピーカーとトランスミッターの周囲の建物の構造などによって変化します。スピーカーとトランスミッターの間に電波をさえぎるもの（金属の扉など）があると、到達距離が短くなります。

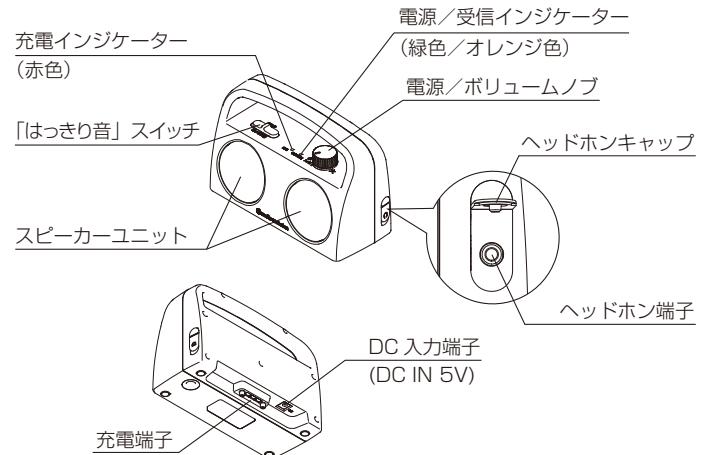
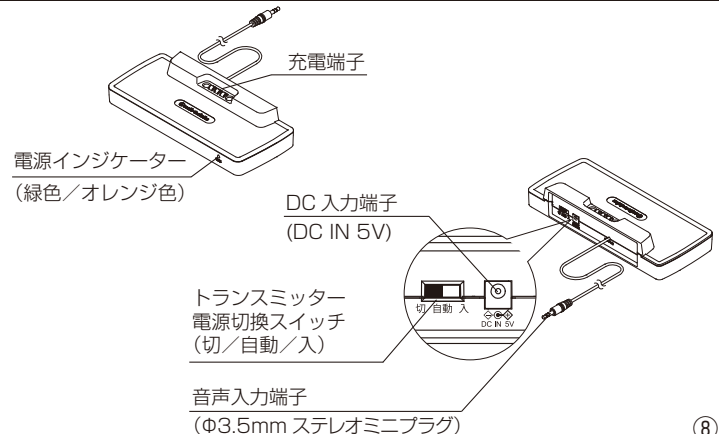
到達可能な範囲を超えた場合や、スピーカーとトランスミッターの間に電波をさえぎるものがある場合はスピーカーの「電源／受信インジケーター」が点滅します。到達可能な範囲でご使用ください。
※トランスミッターの電源切換スイッチが「切」の場合、またはオートスタンバイモードになった場合、スピーカーが到達可能な範囲にあっても「電源／受信インジケーター」が点滅します。

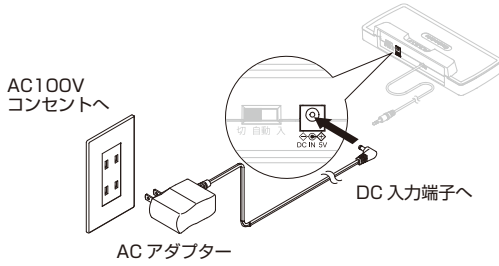
各部の名称

スピーカー　AT-SP760R

電源／受信インジケーター（緑色／オレンジ色）
充電インジケーター（赤色）
電源／ボリュームノブ
「はっきり音」スイッチ
ヘッドホンキャップ
スピーカーユニット
ヘッドホン端子
DC 入力端子（DC IN 5V）
充電端子

トランスミッター　AT700TX

充電端子
電源インジケーター（緑色／オレンジ色）
DC 入力端子（DC IN 5V）
トランスミッター電源切換スイッチ（切／自動／入）
音声入力端子（Φ3.5mm ステレオミニプラグ）

トランスミッターを準備する

トランスミッターの電源が「切」になっていることをご確認ください。
トランスミッターと付属の AC アダプターを接続します。

スピーカーを準備する

スピーカーの電源が「切」になっていることをご確認ください。

充電のしかた (内蔵充電池でスピーカーを使用する場合)

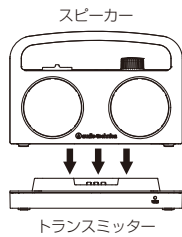
トランスミッターの背面にある電源を「自動」または「入」にします。

トランスミッター電源切換スイッチ
切 自動 入
電源切 ← オートスタンバイ → 電源入

1. スピーカーをトランスミッターの上に置きます。

2. 充電インジケーターが赤色に点灯し、充電を開始します。

3. 充電インジケーターが消灯すると充電完了**（約２～３時間）**です。

＊約２～３時間とは充電完了にするための目安の時間です。
＊トランスミッターの電源が「切」の状態では充電できません。
＊電池残量が少なくなるとスピーカーの電源／受信インジケーターが緑色⇒オレンジ色⇒消灯に変わります。
＊**トランスミッターを使用して充電する場合、充電中はスピーカーおよびヘッドホンから音が出ません。**

●**気温が5℃～35℃のところで充電してください。**
●使用可能時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、内蔵充電池の寿命と考えられます。内蔵充電池の交換については、お買い上げのお店、または当社のサービスセンターにご相談ください。

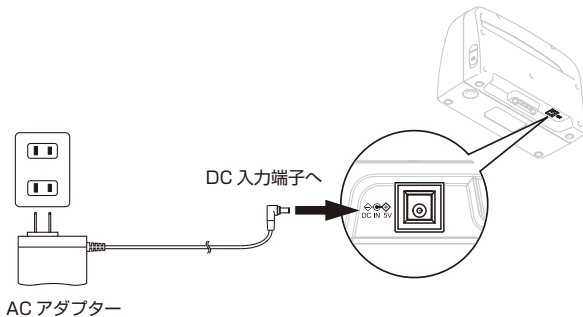
AC アダプター (別売) でスピーカーを使用する場合

別売のスピーカー用 AC アダプター (AD-SL0520AH) を使用して、電池残量を気にすることなくスピーカーを使用することができます。

1.　スピーカー底面にある DC 入力端子と AC アダプターを接続してください。

2.　充電インジケーターが赤色に点灯し、充電を開始します。

3.　充電インジケーターが消灯すると充電完了**（約２～３時間）**です。

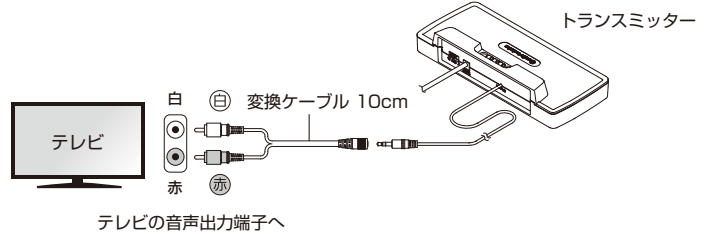
＊約２～３時間とは充電完了にするための目安の時間です。
＊AC アダプターを接続したままでも、過充電にはなりません。
＊**AC アダプターを使用する場合、充電中でもスピーカーから音声が出ます。**

＊お買い求めいただく際は販売店、または当社サービスセンターにお問い合わせください。
＊適合する別売 AC アダプターの最新情報は当社ホームページにてご確認ください。
（http://www.audio-technica.co.jp/）

テレビとの接続のしかた

テレビとの接続には使用したい場面にあわせて、以下の２種類の方法があります。
＊接続するテレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

①スピーカーとテレビの両方から音声を出したい

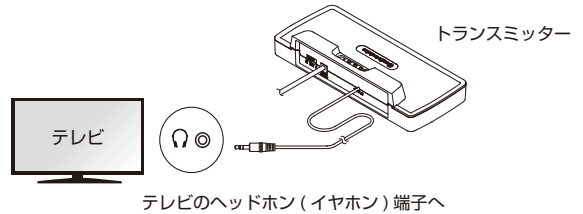
テレビの音声出力端子に接続します。

付属の変換ケーブルをトランスミッターのコードに接続し、プラグ (白赤) をテレビの音声出力端子（テレビによっては「モニター出力」「入力／音声出力」など）に接続します。

●テレビ側の「音声出力設定」を変更しないと音声が出力されない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
●お持ちのテレビに音声出力端子がない場合は②の方法で接続してご使用ください。（P.12 参照）
●一部のテレビでは、HDMI 入力端子がほかの機器と接続されていると、①の接続方法では本製品の音声が出ない場合があります。その際は、②の接続方法でご使用ください。

テレビとの接続のしかた（つづき）

②テレビの音は消してスピーカーだけ音声を出したい

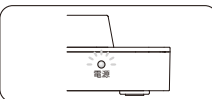
テレビのヘッドホン (イヤホン) 端子に接続します。

トランスミッターのコードのプラグをテレビのヘッドホン (イヤホン）端子に接続します。

●「スピーカー出力切換」など、テレビ側の音声をON／OFFできるテレビでは、スピーカーとテレビの両方から音声を出すこともできます。詳しくはテレビの取扱説明書をご確認ください。
●モノラルテレビに接続した場合は、左側のスピーカーのみ音声が出ます。両方のスピーカーから音声を出したい場合は別売の『モノラルーステレオ変換アダプター』をお買い求めください。

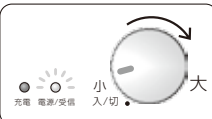
使いかた

1. トランスミッターの電源切り換えを設定します。
トランスミッター電源切換スイッチを「自動」または「入」にします。

「切」　…電源切
常にトランスミッターの電源が切れている状態です。

「自動」…オートスタンバイ
テレビの音声信号が入ると自動的にトランスミッターが電波を送信します。
また、約 10 分間音声信号がない状態が続くと、自動的にトランスミッターが電波の送信を停止します。停止状態では電源インジケーターは緑色からオレンジ色に変わります。
再び音声信号が入ると、自動的にトランスミッターが電波を送信しはじめ、電源インジケーターは緑色に戻ります。

「入」　…電源入
常にトランスミッターが電波を送信している状態です。

2. スピーカーの電源が「切」になっていることを確認し、テレビの電源を入れます。

3. スピーカーの電源を入れます。
スピーカーの電源／ボリュームノブを右に回して電源を入れてください。電源が入ると電源／受信インジケーターが緑色に点灯します。

4. 音量を調整します。
電源／ボリュームノブで音量を調整してください。

5. 使い終えたらスピーカーの電源を切ります。
スピーカーの電源／ボリュームノブを左に“カチッ”と音がするまで回して電源を切ってください。
電源／受信インジケーターが消灯します。

- ●スピーカーのボリュームは音が歪まない範囲でご使用ください。
- ●トランスミッターをヘッドホン (イヤホン) 端子に接続している場合、テレビのボリュームが小さいと、オートスタンバイ機能が働いてスピーカーから音が出なくなる場合があります。
その場合はトランスミッターの電源切換スイッチを「入」に設定するか、テレビのボリュームを上げてください。

使いかた（つづき）

「はっきり音」機能

「はっきり音」スイッチを入れると台詞や音声を明瞭に聞くことができます。

SRS Dialog Clarity
はっきり音

＊「はっきり音」の効果には個人差があります。
＊「はっきり音」は SRS Labs, Inc. が開発した SRS Dialog Clarity™ 技術を採用しています。この技術は、人の声の領域の周波数を強調することにより、オーディオやサウンド再生音の中で台詞を明瞭に聞くことができます。

SRS Dialog Clarity　Dialog Clarity、SRS と ◉ 記号は、SRS Labs, Inc. の商標です。
Dialog Clarity 技術は SRS Labs,Inc. からのライセンスに基づき製品化されています。

ヘッドホン端子

＊ スピーカーのヘッドホン端子にお持ちのヘッドホンを接続すると、テレビや AV 機器の音声をヘッドホンで聞くことができます。
スピーカーの電源／ボリュームノブで音量を調整してください。
＊ ヘッドホンを接続した場合、スピーカーからは音声が出力されません。
＊ モノラルイヤホンを接続した場合、左側の音声のみ聞こえます。

お持ちの ヘッドホン

故障かな?と思ったら

	確認項目	対処
Q. 音が出ない	A1. スピーカー、トランスミッターの電源が入っていますか?	電源を入れてください。(⇒P.13)
	A2. スピーカーの電源／受信インジケーターが消えていませんか?	充電してください。(⇒P.9)
	A3. トランスミッターに置いていませんか?	トランスミッターから外してください。(⇒P.9)
	A4. トランスミッターとテレビが正しく接続されていますか?	トランスミッターとテレビの接続を確認してください。(⇒P.11,12)
	A5. テレビの電源が入っていますか?	電源を入れてください。(⇒P.13)
	A6. テレビのボリュームを下げすぎていませんか?	テレビのボリュームを上げてください。(⇒P.13)
	A7. スピーカーにヘッドホンを接続していませんか?	ヘッドホンを外してください。(⇒P.14)
	A8. トランスミッターをモノラルの機器に接続していませんか?(片側からしか音が出ない)	右側のスピーカーからは音声が出ません。(⇒P.12)
	A9. テレビの音声出力端子が「可変」ではありませんか?	テレビのボリュームを上げてください。(⇒P.12)
	A10. テレビの「入力／音声出力」に接続していませんか?	テレビの設定を音声出力にしてください。テレビの取扱説明書をご確認ください。(⇒P.11)
Q. 音が途切れる	A1. スピーカーの電源／受信インジケーターが点滅していませんか?	到達可能な範囲でご使用ください。(⇒P.7)
	A2. スピーカーのボリュームを上げすぎていませんか?	スピーカーの音量を下げ、テレビのボリュームを上げ、音が歪まない範囲でご使用ください。(⇒P.13)
	A3. テレビのボリュームを上げすぎていませんか?	テレビのボリュームを下げてください。(⇒P.13)
	A4. プラグが接続した端子から外れていませんか?	確実に接続してください。(⇒P.11,12)
Q. ノイズが入る	A1. 周囲に 2.4GHz 帯の電波を使用する機器がありませんか?	電波が干渉しています。2.4GHz 帯の電波を使用する機器から、できるだけ距離を離して設置してください。(⇒P.6)

テクニカルデータ

● スピーカー　AT-SP760R

型式	: アンプ内蔵スピーカーシステム
スピーカーユニット	: φ40mm×2
最大出力	: 1W+1W
出力端子	: φ3.5mm ステレオミニジャック
電源	: 専用リチウムポリマー充電池 (内蔵) DC5V(別売の AC アダプターを使用、日本国内専用)
連続使用時間	: 約 12 時間 (専用リチウムポリマー充電池 5mW+5mW 出力時)
外形寸法	: H127×W190×D80mm
質量	: 約 600ｇ

● トランスミッター　AT700TX

変調方式	: その他の方式
送信周波数帯	: 2.4GHz 帯
到達距離	: 約 30m
入力端子	: φ3.5mm ステレオミニプラグ (1.5m)
電源	: DC5V(付属の AC アダプターを使用、日本国内専用)
外形寸法	: H35×W190×D80mm
質量	: 約 160ｇ

● 付属品

変換ケーブル	: RCA ピンプラグ ×2 ⇔φ3.5mm ステレオミニジャック (10cm)
トランスミッター用 AC アダプター	: AD-SL0520AH

● 別売

スピーカー用 AC アダプター	: AD-SL0520AH

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

お問い合わせ先(電話受付／平日9：00〜17：30)
製品の仕様･使いかたや修理･部品のご相談は、販売店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。
●**お客様相談窓口(製品の仕様･使いかた)**　0120-773-417
(携帯電話･PHSなどのご利用は　03-6746-0211)
FAX：042-739-9120　Eメール：support@audio-technica.co.jp
●**サービスセンター(修理･部品)**　0120-887-416
(携帯電話･PHSなどのご利用は　03-6746-0212)
FAX：042-739-9120　Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp
●**ホームページ(サポート)**
www.audio-technica.co.jp/atj/support/

修理、内蔵充電池の交換について
本製品の修理や内蔵充電池の交換をご依頼される際は、スピーカーとトランスミッターの両方をお預けください。

アフターサービスについて
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間･規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666　東京都町田市成瀬2206
http://www.audio-technica.co.jp　　232304701B